「米」は日本の元気の素
総領で備北米−1グランプリ
REPORT 1

「米」を使ったメニューを競う「備北米-1グランプリ」が10月14日、総領町の田総の里スポーツ公園で開催されました。

このイベントは、日本人の主食「米」をさまざまな形で味わおうと企画されたもので、「料理（8店）」「スイーツ（5店）」「ごはんのおとも（5店）」の3部門で競いました。

1部門につき1枚の投票券を渡された参加者は、会場に軒を連ねた各ブースを回り、創意工夫されたメニューを味わいながら、それぞれ一押しの一品に投票。その結果、料理部門ではかぼちゃのライスコロッケ、スイーツ部門では米粉ワッフル、ごはんのおとも部門ではゴーヤの佃煮がグランプリを獲得しました。

米ワッフルを作成したまんま堂の代表者は「一生懸命メニューを考えて出店した。グランプリが取れて本当にうれしい」と涙ぐんでいました。

そのほか会場では、総領饗心太鼓などのステージや世界一のもちつき、隣接するなかつくに公園ではウォーキングも行われ、訪れた参加者は楽しい一日を過ごしていました。

記録のさらなる継続と交通安全への誓いを新たに
高野地域で交通死亡事故ゼロ継続3000日達成記念式典
REPORT 2

高野地域での交通死亡事故ゼロ継続3000日の達成を記念する式典が9月11日、高野小学校体育館で行われ、町内の小中学生や市民など約400人が集まりました。

式典は、庄原地区交通安全協会高野分会などでつくる実行委員会が開催したもので、井上清憲実行委員長は「高野地域で範となる交通安全運動を継続してきた実績を誇りとし、今回の交通死亡事故ゼロ継続3000日達成を一つの通過点と捉え、さらなる交通死亡事故ゼロ継続を目標に、引き続き交通安全活動を推進したい」とあいさつしました。

また町内の小中学生が作った交通安全標語優秀作品が披露され、町内で永く交通安全活動を継続している団体とともに感謝状が贈呈されました。

式典後のアトラクションでは広島県警音楽隊によるドリル演奏が披露され、迫力ある生演奏に会場は大いに盛り上がりました。

▲井上委員長から感謝状を受け取る中原浩高野小PTA会長（左）

▲広島県警音楽隊の華麗なドリル演奏

未来の父・母が子育て演習
乳児・幼児と口和中学生がふれあい体験
REPORT 3

▲子どもと触れ合う生徒たち

口和中学校の生徒と未就学児が交流する「ふれあい体験学習会」が10月4日、口和中学校で行われました。

この日、3年生17人と保育所入所前の0歳〜3歳児10人がご対面。最初に生徒たちが自分の名前の由来や、今がんばっていることを発表した後、お母さんたちと一緒におもちゃ作りを行ったり、乳幼児と一緒に遊んだり抱いたりしてふれあいました。

途中、お母さんたちが校内を見学している間、生徒たちは子どもたちを預かり、お母さんの代役をしましたが、お母さんがいなくなった途端に子どもたちは泣き出し、生徒が抱っこしてあやしてもなかなか泣き止まず悪戦苦闘していました。

体験学習を終えた生徒は「もっとうまく赤ちゃんと接することができると思っていたけど、実際はとても難しかった。お母さんの大変さがわかった」と話していました。

水車が伝える村の文化と地域づくり
グリーンピア大佐村「ふれあい水車」リニューアル
REPORT 4

西城町大佐にある「ふれあい水車」が、木製から鉄製の水車に生まれ変わりました。

平成4年に農耕文化の伝承施設として造られたこの水車は、老朽化により数年前から動かなくなっていましたが、グリーンピア大佐村の皆さんが自治振興区活動促進補助金事業を活用して修復しました。

▲谷の水を受け、ゴットン、ゴットンと力強く回る水車

水車小屋には、米などをつく（精米する）装置と、米・大豆・そばなどを粉にする石臼があり、石臼は約50年前まで地元で使用されていたものを引き継いでいます。

かつて西城は、水車の里と呼ばれるほど多くの水車が回っており、大佐地域にも18基（3軒に1基）の水車が、米つきや粉引きなどに共同利用されていました。

9月30日にはそのお披露目会が行われ、水車の周りに集まった大佐村の皆さんは「昔の生活が懐かしく思い出される」「水車の音に励まされるよう」「水車が復活してうれしい」などと笑顔で話し、カメラやビデオで撮影していました。

大佐村ではこの水車を、子どもたちの遠足や農業農村体験交流などの地域づくり事業にも活用していく予定です。

道後山高原から全国へたすき
クロカンパークで高校クロカン駅伝
REPORT 5

第16回広島高等学校クロカン駅伝大会が9月23日、道後山高原クロカンパークで開催されました。

夏場の走りこみから高校駅伝の仕上げの大会として位置づけられるこの大会には、県内はもとより中国地区からの出場チームも増えており、毎年年末に京都で開催される全国高校駅伝でも、この大会の出場選手が活躍しています。

広島県高等学校体育連盟陸上競技駅伝部の立上良典部長は「道後山高原クロカンパークは、夏涼しくスポーツ合宿には理想的な環境。豊かな自然を満喫しながら安心して大会やトレーニングに集中できる」と話していました。

なお、レースは男子が世羅高校、女子は興譲館高校（岡山県）が優勝を飾りました。

▲芝の上を駆け抜ける選手たち

アウトドアの魅力を比婆山で満喫
ひろしま県民の森で「山フェスしょうばら」開催
REPORT 6

▲アウトドアファッションショー

庄原の山の魅力を発信するイベント「山フェスしょうばら2012」が9月30日、ひろしま県民の森で行われました。

当日は、台風の影響があったにもかかわらず、市内外から約250人が参加。岡山市・広島市からはバスツアーも運行されました。

メーンイベントとなるアウトドアファッションショーでは、登山クラブ「広島山ガールクラブ」（広島市）のメンバーなど15人がモデルとなり、「山ガール」「山ボーイ」向けの最新アウトドアファッションに身を包んで登場し会場を盛り上げました。

このほか、登山ガイドが同行する初心者向けの登山、アウトドア料理教室、山ヨガなども行われ、参加者は思い思いに比婆山連峰を楽しんでいました。

倉敷市から訪れた参加者は「山登りも気持ち良かったけど、地元の方の温かいもてなしがうれしかった」と喜んでいました。

秋空の下熱戦！地域間、世代間でスポーツ交流
第49回東城地区総合体育大会

REPORT 7

▲元気に選手宣誓

庄原市体育協会東城支部が主催する東城地区総合体育大会が10月7日、東城中央運動公園を主会場に開催されました。

この大会は、昭和39年の東京オリンピック開催を記念して始められたものです。

秋晴れとなったこの日、ソフトテニス、ソフトボール、ソフトバレーボール、ゲートボール、グラウンドゴルフの6種目に各地区から8チーム、800人余りが参加。プレーに応援にと幼児からお年寄りまで交流を深めました。

特にグラウンドゴルフは、「第7回庄原市民健康づくりグラウンドゴルフ大会」の予選を兼ねているため一層熱が入っていました。

支部長の吉本一徳さんは「今年はロンドンオリンピックもあり感慨深い。来年半世紀を迎えるこの大会を関係者や住民の皆さんと共により充実したものにしたい」と話していました。なお、大会結果は次のとおりです。

優勝／帝釈チーム　準優勝／小奴可チーム
第3位／東城上チーム

子どもたちの笑顔、舞台ではじける
第13回庄原こどもミュージカル

REPORT 8

第13回庄原こどもミュージカル「オズの魔法使い」が10月21日、庄原市民会館で行われ、2回の公演で約1,500人が来場しました。

庄原・三次・津山市・神石高原町から公募により集まった子どもたちと大人86人は、この日のために5月から練習を積み重ねてきました。

出演者はそれぞれの役柄を身体全体で表現し練習の成果を披露。舞台の上で笑顔いっぱいに踊り、元気な歌声を会場に響かせました。

実行委員長の児玉節さんは「今年は国からの助成金が得られずどうなることかと心配したが、地元の皆さまのご寄付のおかげで何とか公演ができた。子どもたちのためにこれからも続けていきたい」と話していました。

▲笑顔で元気いっぱいに踊るこどもたち

庄原特別支援学校が異文化交流
シンガポール2校と姉妹校提携

REPORT 9

知的障害者を受け入れているシンガポールの高校2校の生徒計10人が9月25日～26日、広島県立庄原特別支援学校を訪問し、交流を深めました。

特別支援学校と訪問した2校は7月に姉妹校提携し、今回初めての交流となりました。

初めに両国の文化や習慣、学校活動などが紹介され、シンガポールはダンス、支援学校が田楽太鼓を披露し、一緒になって踊り、太鼓を演奏しました。

高等部3年生の廣澤祐二くんは「とても楽しみにしていた。シンガポールへの興味がわいた」とにっこり。ベンジャミン・ウォン・ジョーウェインくんは「いい友だちができそう」と笑顔で話していました。

歓迎行事後は、一緒に授業に参加したり、国営備北丘陵公園でレクリエーションなどを行ったりするなど、2日間楽しく交流しました。

特別支援学校長の東内桂子さんは「子どもたちには異文化に触れることで、少しでも視野を広げてほしいと思う。今後はインターネット回線を利用した授業交流も行っていきたい」と話していました。

▲田楽太鼓を一緒に演奏

多くの観光客が訪れる
市内各地で秋祭り

REPORT 10

口和モーモー祭
10/ 6･7

▲牛と子どもの綱引き

口和総合運動公園で開催され、延べ28,000人の来場者でにぎわいました。

牛が会場を練り歩く「モーモー大行進」や、牛と子どもの綱引きなど多彩なイベント、ステージでは地元の芸能団体などの出し物や、森川つくし、水森かおりの「歌謡バラエティ」などで盛り上がりました。

大人気の広島県産黒毛和牛の炭火焼コーナーでは、用意された3,700パックが完売。もも肉の丸焼きコーナーや地元の特産品即売などで長い行列ができていました。

比和やまびこ祭
10/ 21

▲ヤマビコくん

比和総合運動公園で開催され、市内外から約5,000人の来場者でにぎわいました。

今年は古事記編纂1300年を記念して「庄原と奥出雲をつなぐ神楽交流イベント」と題し、比婆荒神神楽と奥出雲神代神楽が共演し、会場を大いに盛り上げました。

バザーコーナーでは、広島牛のもも丸焼きなどの地域の味覚のほか、奥出雲町の特産品も出展。また、「からだいきいき健康まつり」と「ツーリングトライアルin比和」が同時開催され、来場者は快晴の下秋の一日を満喫していました。

庄原みのりの祭典‘21
10/ 14

▲秋の味覚を買い求める客

国営備北丘陵公園で開催され、市内外から訪れた多くの人でにぎわいました。

会場となった大芝生広場には、各地域の特産品や農産加工品の展示販売ブースが並び、親子連れやカップルなどが、目当ての品を買い求めていました。

ステージイベントとして、ご当地アイドルの「まなみのりさ」による歌謡ショーや比婆荒神神楽などもあり、来場者は秋の味覚を味わいながら、ステージ催事を楽しんでいました。

ふれあい東城まつり
10/ 21

▲ミラクルひかるものまねショー

東城小学校グラウンドをメーン会場に開催され、約8,000 人の人出でにぎわいました。

ミラクルひかるのものまねショー、神園さやか歌謡ショー、地元の方々によるステージショーをはじめ、保育園児による竹太鼓、比婆荒神神楽子ども神楽塾による神楽など、多くの催しで盛り上がりました。

前日の夜にはスター誕生芸能発表と題し、地元の皆さん出演による「ふれあいの夕べ」も開催されました。

発想力･観察力･創造力を形に
第61回備後地区生徒児童発明くふう展

REPORT 11

第61回備後地区生徒児童発明くふう展の入賞作品が10月4日･5日の両日、市役所市民ホールで展示されました。

この発明くふう展は、子どもたちに発明･工夫する楽しさと創作する喜びを体得させ、豊かな観察力と創造力を養うことを目的に毎年開催されています。

今年は54校から383作品（自由作品部門308、課題作品部門75）の応募があり、市内からは小学校10校34作品、中学校1校1作品が出品され、審査の結果、自由作品部門で4作品、課題作品部門で1作品、団体賞に東城小が入賞しました。

ピーラーで野菜の皮をむくと取り付けた透明ケースに皮がたまるという「片付け上手ピーラー」を考案し、最高賞の松本賞を受賞した伊折星那さん（総領小6年）は「キャンプで野菜の皮むきをしたとき、片付けが大変だったことから思い付いた。便利な点は片付けが楽にでき、自然を汚さずに済むところ」と話していました。

▲受賞を喜ぶ伊折さん